

INFO 1

パーラー東開町2丁目です

苫小牧市東開文化交流サロン内で運営しているパーラー東開町2丁目は、こだわりのドリンク・スイーツ・ランチを提供するカフェです。また、就労継続支援A型事業所として、現在3名の利用者の方が働いています。この夏、新たにランチメニューをスタート。野布瀬農園のお米のおにぎりと具沢山の豚汁の《おにぎりとお汁のセット》や、ぺこぺこのはたけの野菜のスープを、地元苫小牧のB型事業所で作られた天然酵母のパンで楽しむ《スープを食べるパンのセット》など、美味しくて体に優しいランチをお召し上がりいただけます。

その他、Ruelleのパウンドケーキや札幌の有名店「パフェ佐藤」監修のサンデー、丁寧に抽出したネルドリップ珈琲などなど、おすすめのメニューがたくさん！お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



INFO 2

ぺこぺこのはたけ 9月の小鉢御膳

今年の夏はとて暑い日が続きましたが、お変わりありませんか？ぺこぺこのはたけでは、なかなか雨が降らない状況に、はたけの野菜たちにも大変な夏となりましたが、おかげさまで今年も採れたての野菜を使ったお料理をたくさんのお客様にお届けすることができました。さて、まだまだ残暑が続く9月の小鉢御膳は、夏の終わりにふさわしい料理となっております。食材の豊かな甘みと涼しげな味わいの冷製とうきびスープやトマト・蜂蜜和ハッカ、夏野菜でおなじみのピーマンを大胆に使ったピーマン肉詰めフライ、そして、土用の丑の日には必ずと言っていいほど食卓に登場する鰻を使った、旨味たっぷりの鰻巻きなど、夏の味覚を最後まで味わうことのできるラインナップとなっております。9月もたくさんのお客様のご来店をお待ちしております。



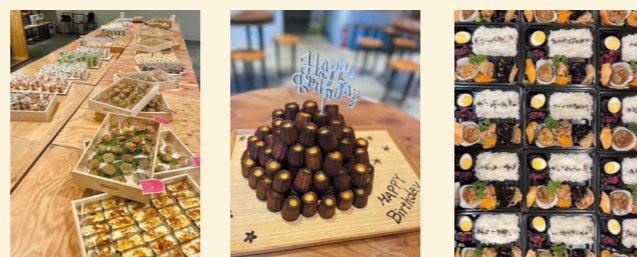
ぺこぺこのはたけ
TEL 0133-27-6440

INFO 3

U-gohan 北海道の米と汁 東大正門 ケータリングの注文たくさんいただいています！

夏休み期間中は、日頃より学生さんの人数が少なめではありましたが、さすが東大。学校で勉強や研究されている方にたくさん利用していただきました。また、大規模な集まりも増えてきており、ケータリングのご注文もたくさんいただいております。

写真は、先日KUMAHALLで行われた60名のパーティーの写真です。野布瀬で取れたお米をおにぎりやお稲荷さんにして、季節の野菜をたくさん使ってお客様ごとにメニューを提案しています。ゆうゆうの活動がたくさんの人に知ってもらえるようにこれからも日々頑張っていきたいです。



Donation 寄付について

ゆうゆうの活動に ご支援をお願いします

◎社会福祉法人への寄付について

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからのご寄付を受け付けています。

超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切にする福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。

- 1 個人の場合
- 2 法人の場合
- 3 相続による寄付の場合

所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。

一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。

租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。
※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームからご依頼ください。

TEL:0133-22-2896
<https://yu-yu.or.jp/contact/>



ゆうゆうの今を伝える広報紙



YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



ぺこちゃん感謝祭
撮影:工藤了



和寒町ふくしのまちづくりプロジェクト



和寒町「福祉のまちづくり基本構想」および「中核となる福祉施設の基本計画」作成業務を受託することになりました。3000人の町、和寒町。ここでは高齢化率が45%、少子化もすすみ、高齢者も介護サービスを受ける前に、医療を含めた生活基盤や多様なサービスが充実している町外へ流出する等人口減少が大きな課題となり、さらには町内で唯一の特養の老朽化が進む中、年々かかる改修費用等の財政的負担が大きな課題となっています。

これらの課題を踏まえ、建物の建て替えのみならず、町全体を巻き込んで、「持続可能な福祉のまちづくり」を提案し実現していくのが、この「和寒町ふくしのまちづくりプロジェクト」です。今ある和寒町の資源や魅力を最大限に引き出しながら、高齢者も障がい者も、そして何より未来を担う子供たちも大事にされていることを実感できる居場所をつくる、そんなことを目指しています。

今年5月にプロジェクトが開始後、「和寒まちあるき」を皮切りに、「和寒町ふくしのまちづくり町民サミット」、「ふくしのまちづくりラボ」を開催し、町民の皆さんがこのプロジェクトを主体的に捉え、行動していくことを軸に、町民の皆さんの意見を沢山聞き、皆さんで何ができるか、どうできるか考え行動化できるよう取組みを進めています。

それ以外にも、間接的な活動として「認知症キッズサポーター・ジュニアサポーター養成講座」や「福祉ワークキャンプ」、「福祉フィールドワーク」を実施し、「和寒町を知る」「自分たちの暮らしを自分たちでデザインする」をテーマに、町内町外の子供たちも巻き込んで活動してきました。

今回のプロジェクトは、大麻銀座商店街の店舗等の改築に尽力いただいた一級建築士事務所teco株式会社と協働運営体を組織化し、これからの福祉建設のあり方にも踏み込んでいきたいと考えています。今後も引き続き、和寒町の取組みを皆さんにお伝えしていきます。



北海道・北東北アート&ステージ 開催決定

北海道・北東北で活躍する障がいのある人のアート作品やステージの披露の場所である「アート&ステージ」が、9月15日(金)~9月18日(月・祝)に岩見沢市にて開催されます。北海道・青森・岩手・秋田で教えてもらった「押し」作品が集まるアート展、同じく北海道・北東北で選ばれた4組のライブパフォーマンスをお届けする「アール・ブリュット・ショウケース」、そしてダンボールで町をつくるワークショップなど盛りだくさんの内容でお届けします。皆さまのご来場お待ちしております。



アールブリュット
推進センターGently



笹原竜太「タージマハル」



さっぽろ太鼓衆「風」



苫小牧市東開文化交流サロン、はじめての夏

サロンがオープンしてから、あっという間に半年が経ちました。7月2日には「サロンづくりサロン」と称して、普段サロンで活動をしてくださっている方やサロンに関心のある方を招いて、半年間の取り組みの報告会と今後のサロンについての意見交換会を実施。たくさんのアイデアを頂くことができました!

その後はオープンしてからはじめての夏休み。元気いっぱいの子供もたちが、畑の収穫作業や、図書室の「ししよジュニア」として活躍してくれたり、ママさん向けの勉強会や交流会の際には、小さなお子さんの見守りボランティアとして地域住民の方にご活躍頂いたり。

少しずつ、少しずつですが、地域の方が主役のサロンづくりに近づいている実感があります。私たちスタッフも、4年ぶりの開催となった東開町内会夏祭りに裏方として参加させて頂き、地域の活気を目の当たりにしました!

これからも、みなさんと一緒に織りなしていくことを大事にしながら、1日1日に向き合っていきたいと思います。



子どもたちの夏休み

amaririsuは、感染対策のためここ数年中止していたお泊り会を、満を持して実施することができました。夜のイベントではビンゴ大会と花火大会を行いました。天気が不安定な中、たくさんの保護者の方やきょうだいの皆さんも参加し、ご家族同士や働くスタッフとの交流の機会となりました。お泊りイベントでは、夜食作りやゲーム大会をして楽しく過ごし、翌日には自分の朝ごはんを調理し美味しく食べました。数年越しの夏の思い出作りが実現できました。

今年は特に、暑い日が続く夏でしたが、kaedeでは、子どもたちにとって楽しい思い出の一コマになるよう、夏休み支援プログラムは全日イベントを開催しました。体を動かす機会やかき氷体験、カレー作りといった調理イベントを企画し、多くの子どもたちが参加しました。これからも感染症対策は続きますが、子どもたちが今だからできる体験、学びの機会を今後も作っていき考えています。



商店街の夏の風物詩

kaedeやよるのにじが位置しています大麻銀座商店街では、新型コロナウイルスが2類から5類へ移行してから徐々に賑やかさを取り戻し、今夏は3年振りに「夏まつり」や「盆踊り」といった夏の風物詩が復活いたしました。それに併せてRuelleでも店頭で冷やしたチョコフルーツを販売し、多くの方々にお買い求めいただきました。また、江別出身のオリンピックを商店街にお呼びして、競技のデモンストレーションや子ども向けの体操教室も開かれ、オリンピックの1つ1つの動きに歓声が溢れていました。このようなイベントを活発に行われる一方、日常的にも小さなお子さんを連れている親子連れからご高齢の方まで、多くの方が往來する風景がまた見られるようにもなりました。このような賑やかな商店街の中で、kaedeやよるのにじを利用する方々の活動や歩く姿、笑い声も彩りのある風景の一部として今日も溶け込んでいます。



野布瀬農園の今日この頃

夏になるとたくさんの「稗(ひえ)」という草が生えています。厄介な雑草で、田んぼも畑もそこら中に生えてきます。稗は作物より、早く大きく育つので農家を困らせますが、ぼくにとっては隣にいても気にならない存在です。でも放っておいては野菜が育たないので定期的に刈っています。「ちょっとごめんね。」と思いながら刈り倒す自分って何なんだろうと時々思います。「これも利用者さんのため」と自分を納得させます。この時自分が誰のためにはたらいているか思い出す時があります。福祉の仕事をしていると、誰も取りこぼしたくない気持ちを持ちます。この気持ちを農業にも取り入れるべきか迷いながら日々農作業をしています。野布瀬の近況ではなく稗の近況になってしまいました。そんな稗に負けずに育った野布瀬の米・野菜を楽しみにお待ちください。

